

情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波有効利用方策委員会  
VHF/UHF帯電波有効利用作業班  
電気通信グループ（第2回）議事要旨

1 日時

平成19年3月22日（木）16時00分～16時45分

2 場所

総務省1101会議室

3 出席者（敬称略）

（構成員）

尾崎（ドコモ）、岩男（KDDI）、坂本（イ・モバイル）、佐々木（PMC）、竹井（インテル）、田中（ソフトバンクモバイル）、五十嵐（アビ°モバイル：中田構成員代理）、守（富士通）

（総務省）

小泉（総務省）、大野（総務省）

4 議題

(1) 電気通信グループに課せられた課題の検討について

～ 上下トラフィックの客観的データと今後の需要予測 ～

(2) その他

5 議事要旨

(1) 前回AH議事録（参考資料1）について各構成員に照会済みであることが説明された。

(2) 周波数有効利用施策、上下トラフィックの客観的データと今後の需要予測について、議論が行われた。

① 尾崎代表、岩男構成員、田中構成員より、資料2022-VU作-電 ad2-1～3について説明された。

② 事務局より、トラフィックのデータについては委員会に概ね現状のまま提出可能と考える旨確認された。一方、周波数有効利用施策については、十分な施策を実施しているものの、必要周波数が足りない点から、UHF帯の必要性を説明する順序立てを明確にすべきとのコメントが述べられた。

尾崎代表より、高トラフィックエリアにおける更なる小セル化は困難の旨を追記することが提案された。

- ③ 田中構成員より、資料 2022-VU 作-電 ad2-3 の補足として、東京都における 3G と 2G 基地局数の比率について説明があり、2G と比較して 3G は更なる有効利用を実施している旨が述べられた。

(3) 電気通信と ITS の共用可能性について、議論が行われた。

- ① 尾崎代表、田中構成員より、資料 2022-VU 作-電 ad2-4、5 についてそれぞれ説明された。
- ② 事務局より、資料 2022-VU 作-電 ad2-5 で示された周波数配置案に対して、2012 年 7 月以降早期に利用でき、また、未利用の帯域をできるだけ発生させないとの観点で、本作業班の検討を進めることのことが適当とのコメントが述べられた。また、ITS との共用条件には、ITS の技術基準の検討が必要であることから、その時点で新たな案が生じた場合には反映することもあり得るとのコメントが述べられた。
- ③ 尾崎代表より、資料 2022-VU 作-電 ad2-5 の配置案は現状の周波数割当計画を変える等、仮定と前提の上での案であることから、今回の作業班にはそぐわない旨コメントされた。また、安心・安全の確保に対する否定的な考えも作業班にはそぐわず、2 つ用途による有効利用の可能性を見当すべきとの旨が述べられた。
- ④ 佐々木構成員より、資料 2022-VU 作-電 ad2-5 の配置案は周波数割当計画からも外れており、また、容易に周波数を動かせるものではなく、本作業班に提出すべき資料ではない旨がコメントされた。資料 2022-VU 作-電 ad2-4 の前提の通り、710-770MHz と 900-960MHz を対で扱い、950-956MHz の RFID を考慮し、700MHz 帯側では 50MHz を電気通信として確保でき、10MHz を ITS で有効利用することが適当である旨が述べられた。
- ⑤ 岩男構成員より、目的が異なる携帯と安全安心のような複数用途による周波数有効利用の可能性は残すべきである旨が述べられた。
- ⑥ 坂本構成員より、700MHz 帯と 900MHz 帯のセパレーションについては継続検討である旨が確認された。
- ⑦ 本 AH では、②～⑤の議論を踏まえ、資料 2022-VU 作-電 ad2-5 を却下し、資料 2022-VU 作-電 ad2-4 に基づき、710-770MHz と 900-960MHz を対で扱い、対の帯域を確保できない UHF 帯について ITS での利用の可能性を示すことが合意された。また、セパレーションや最適な周波数配置は次のステップでの継続検討となった。

#### (4) その他

- ① 電気通信グループに対する課題である上下トラフィックの客観的データと今後の需要予測については、資料 2022-VU 作-電 ad1-1～3 をマージし、事務局のコメントを反映する形で、作業班に報告することが合意された。報告資料の作成は尾崎代表に一任することとなった。
- ② 電気通信グループに対する課題である ITS との共用可能性については、資料 2022-VU 作-電 ad1-4 を本 AH で合意した資料として、UHF 帯共用検討 AH に入力することが合意された。

以上